

第7回 全日本国民的美少女コンテスト



池端 忍 上戸 彩



須藤温子

背筋がピンと伸びてくる。これぞ立派な自PR

本誌にとって、また私にとって初の国民的美少女コンテストの取材となった。

このコンテストがにぎやかに開催できるようになった新しいアイドル時代の幕開けを素直に喜びたい。

モデル審査で表情とルックスを私なりに『審査』してみたものの、好みのタイプと客観的な美しさを区別して判定するのはなかなか難しい。レベル的には過去のコンテストと比べなら見劣りすることなく、さすがモデルプロのオスカーが選んだ決勝メンバーだけあると素直に評価できる。

スチル写真が良かったのは松下萌子。近未来が予測できる点で採りやすいのは汐月佐知子かな。細川直美にどことなく似ている子が多かったのもこのコンテストならではだ。細川愛美は名前も似てるしね(笑)。

演技審査になると、ひとりひとりの個性が見えてくる。プロとしての資質、大化け度をはじめ、表情が変化する瞬間に家庭環境まで見えたりする。それが何%当たっているかどうかはこの際棚に上げて、この先5年をこの一瞬で見きわめたいところだ。

4人ずつ5ブロックの演技審査で、第1、第2ブロックはバツ。第3ブロック以降にグランプリは絞られたと見た。

美少女を選ぶのに歌の力はそんなに必要はないのか、歌唱審査は意外にレベルが低

かった。タバコの歌をうたう小学生、根食真実に賞をあげるのもどうかと思うが、実力的にはこの子しかいないのだから、音楽部門賞も順当な結果といっていいたいだろう。

歌唱審査の途中で私はグランプリを決めていた。細川直美のテイストを持ち、何度見ても飽きない整った顔立ち、そして何より良かったのは姿勢の正しいところ。私のメモには「この子で決まり！ かわいい」と書いてある。須藤温子である。

須藤温子の私の総合点が10点満点中、7・2で最高。その次が7・0の池端忍。池端は80年代アイドルの雰囲気を持ちながらも涼しげな(暑苦しくない)ルックス、そして身長の高さ、笑顔のかわいさなどからモデル部門で相当の活躍が見込めると見たのだが、案の定審査員特別賞を受賞した。

◎・○の決着に私としては大満足だが、同行スタッフは別の子を推していたようになにやら不満気。これをどう見るかについて触れる文字数はないが、私が審査員だったとしても、豊かな知性と品位を有した美少女として須藤温子を文句なく推していただろう。今後の活躍を見守りたい。

オスカーには向いていないかもしれないが、水谷美月と斎藤美代は別のコンテストならまた別の結果になっていたかもしれない。(岡田隆志)